



Pure 純 No.209 Pacific パ May.2020

純パの会会報『純パ』第209号

2020年5月30日発行 / 発行:純パの会

コロナ禍後のプロ野球

影山 一義

新型コロナウイルスの影響で、延びにのびていたプロ野球の開幕は、ようやく6月19日に設定されることになった。当初の開幕予定だった3月20日からは実に3か月遅れとなり、試合数は当初予定の143試合から120試合に減り、そして当面は無観客試合での開催ということ、しばらくの間は試合の様子はテレビやラジオ、インターネットなどで楽しむことになる。

私たちプロ野球ファンは、実に健気に開幕を待ち続けたものだと思う。オープン戦が無観客試合となり、3月20日に予定された開幕の延期後、4月中に設定された開幕予定日が何度も延期された末に無期限延期となり、交流戦やオールスターが中止となり、一時は今シーズンの開催が絶望視されつつも、一方で、選手たちの自主練習の様子を見て元気で活動している様子に安堵し、普段グラウンドでは見せることのない自宅での姿に意外な発見をしたり、本来なら公式戦が放送される時間帯の穴埋めとして放送された過去の名試合の再放送を、試合の展開を知っているにも関わらず一球一球に興奮しながら楽しみ、やがて隣国の台湾や韓国のプロ野球が先行して開幕したのをうらやみつつ、メディアの記事やネットの情報に一喜一憂しながら、本当に本当に、健気に開幕を待ち続けたと思う。

と、書いてはみたものの、一方では開幕を開放して素直に喜べない自分もいる。そのあたりは、まだ開幕日が設定されただけで、おそらく組み替えとなるであろう試合日程や、試合方式が見えてこないこともあるのだが（このあたりはきちんと用意していると信じた）。全国に発令された非常事態宣言が全面解除され、

日常生活や活動が徐々に再開してゆく一方で、今後感染拡大の可能性が指摘されており、せっかくプロ野球が開幕しても、シーズン途中で再び中断となる事態も予想される。仮に途中で中断するようなことになった場合にシーズンの順位や選手の個人成績はどのような扱いになるのか、まだ、示されていない。

また、仮にシーズン中に感染拡大を抑えられたとしても、開幕が大幅に遅れたおかげで、ドーム球場は別にしても10月以降には、地域によってはナイトゲームでは相当気温の低い中で試合を行うことになり、さらに11月21日に開幕する日本シリーズの頃には、デーゲームでも相当な寒さの中で試合を行うことになるわけ、選手のパフォーマンスに影響が出ないか心配になるし、なによりそのような環境下で長時間試合を観ることに慣れていない野球ファンが球場から遠のく可能性も否定できない。それでも行くとは思うけど。

他にも選手の契約問題や、高校野球を中心としたアマチュア野球との関係、なによりも球団の経営問題等々、いろいろと気になることはあるのだが、最大の心配は、今年のような状況がおそらく来年も、そして再来年以降も続くのではないかということ。特に来年は（仮に実施されるならば）再び東京五輪に伴う変則日程となるわけで、そのような状況下で再び開幕延期や試合数減少も覚悟しなければならぬと思っている。開幕ムードに冷や水を浴びせている気もしないでもないが、新型コロナウイルスに対する効果的な対策がまだ見えていない状況下で、今後NPBがどのようにシーズンの運営方針を提示するのかを、見守りたい。